文節木（どの文節がどの文節に繋がっているかを図示したもの）
※省略されている部分（助詞、助動詞など）は補う。

その子二十櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな

ａ）
その子（は）――二十（だ）（。）／初句切れ

櫛に――ながるる――黒髪の――おごりの――春の――うつくしきかな

ｂ）
その子（は）――二十（だ）（。）／初句切れ

櫛に――ながるる――黒髪の
おごりの ―――――――――――――― 春の――うつくしきかな

……

たはむれに母を背負ひて
そのあまり軽きに泣きて
三歩あゆまず

ａ）
たはむれに
母を ―――― 背負ひて ――――
その
あまり―― 軽きに ―― 泣きて ―――― 三歩 ―― あゆまず

ｂ）
たはむれに ――――――――――――
母を ―― 背負ひて ――――――――
その
あまり ―――― 軽きに ―― 泣きて ―――― 三歩 ―― あゆまず

……

白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

ａ）
白鳥は ―― かなしからずや（。）（初句切れ）
（　　は）
空の ―― 青（や）
海の ―― あをにも ―― 染まず ―― ただよふ

ｂ）
白鳥は ―― かなしからずや（。）（初句切れ）
空の ―― 青（が）
海の ―― あをにも ―― 染まず ―― ただよふ

……

ひたぶるに我を見たまふみ顔より涎を垂らし給ふ尊さ

ａ）
（父が）
ひたぶるに
我を
見たまふ ── み顔より
涎を
垂らし給ふ ── 尊さ

ｂ）
（父が）
ひたぶるに
我を
見たまふ（。）（二句切れ）

（父の）み顔より
涎を
垂らし給ふ
尊さ

……

この心葬り果てんと秀の光る錐を畳に刺しにけるかも

ａ）
（私が）
この心（を）
葬り果てんと（思って）
秀の光る ── 錐を
畳に
刺しにけるかも

……

君かへす朝の舗石さくさくと雪よ林檎の香のごとくふれ

君かへす朝の舗石さくさくと雪よ林檎の香のごとくふれ

ａ）
（私が）
君（を）
かへす ── 朝の ── 舗石（が）── さくさくと（音がする）（。）（三句切れ）
雪よ
さくさくと
林檎の ── 香のごとく
ふれ